

合同での新入社員教育を実施

～実践型人材の育成と定着のために～

一般社団法人山梨県鉄構溶接協会(清水一彦会長 会員61社)は、業界の人材確保のために、社員の溶接技術の研修をはじめとして、溶接に携わる人材の裾野の拡大のため高校生に対する溶接技術の講習などにも取り組んできた。

平成27年度からは、協会の会員企業の新入社員

を対象に合同での集合社員教育(OFF-JT)を行っており、これまでの2年間で延べ11社22名が受講している。この講習は、新入社員が溶接業界の理解と仕事の基礎的な知識を学ぶことで、早期に実践型の人材



受講する新入社員を激励する
清水会長

となることを目的に行われている。4月から8月までの延べ27日間で、社会人としての心構えやマナー、コミュニケーション能力にはじまり、労働安全衛生や安全管理、溶接・加工技術、製図やCAD、品質管理、測定検査など、座学と実技の幅広いカリキュラムが組まれている。3年目となる今年度は5社から12名が受講した。

4月5日の開講式で、清水会長は「社会人として良いスタートをきるためにこの講習を有意義な機会としてほしい。当業界で必要な技術資格は多く、意欲をもって自己啓発に取り組めば未来は大きく広がる。人と仲間を大切に、この講習に参加する同期の仲間と交流し切磋琢磨し、講習を終えて人間として一回り大きく成長し、会社に役立つ人材になることを期待したい。」と受講する新入社員に激励した。

●一般社団法人山梨県鉄構溶接協会

TOPICS



5社の新入社員12名が5ヶ月間の講習にのぞむ

中小企業における人材確保が厳しい中、協会では将来を担う高校生の技能向上や新入社員教育、各種資格取得のための技能講習など人材育成・技術向上のための一貫した取り組みを進めており、今回の新入社員研修は、業界の人材定着を共同で図っていこうという先進的な取り組みとして期待されている。